

施策評価管理シート

2015(平成27)年7月作成

担当部局名	部長名	連絡先 (担当室名)
産業部	荻田 敏文	63-7625 (農林資源室)

施策体系	政策	2	美しい自然に包まれた、憩いと潤いのある暮らし
	基本施策	3	新しい名張農業の振興と農山村の整備
	施策	1	農村環境整備

1. 施策の基本方針 **Plan**

- ・「市民を豊かにする都市農業」の創造を目指し、農業マスタープランを基本とした農業施策を展開します。
- ・農業の多彩な担い手づくり、食と「農」のネットワークづくり、「農」を通じた快適な環境づくりを進めます。
- ・市民が生きがいを持ち健康で暮らし続けることができる園芸福祉の活動を促進します。
- ・田園や森林環境と調和する快適で美しいむらづくりを進めます。
- ・市街地住民と農山村住民の豊かな交流を促進します。

2. 目標

○重点目標 **Plan**

- ・農地や農業用施設のきめ細やかな管理による長寿命化を図るとともに、老朽施設の適切な維持管理を継続することにより、農業者や新規就農者が農業に取り組みやすい環境づくりを進めます。
- ・農を通じた農村と都市住民の交流機会を増やすことにより、食や生活に農業が担う役割の重要性に対する理解の向上を図ります。
- ・地元で生産する農産物の供給を増やすことにより、生産者の顔がみえる農産物の流通を図り、地産地消の推進を図ります。
- ・農作物を安心して生産できるよう、市民共通の課題として獣害対策に取り組みます。

○目標達成に向けた課題 **Plan**

- ・国が進める新たな農業・農村政策に的確に対応する必要があります。
- ・経営基盤が脆弱である農業者が多いことに課題があるため、総合的な農業・農村対策などによる経営基盤の強化を図る必要があります。
- ・営農活動の土台となる施設等の老朽化が進んでいるものの、事業にあたっては受益者負担を要し、事業意欲の低下が懸念されることから、国・県の有利な事業の活用とあわせて、地域や農業者、農業団体と連携した事業の促進を図る必要があります。
- ・営農活動において獣害対策が喫緊の課題となっているため、国・県の事業を活用し対策を講じる必要があります。
- ・地域内消費拡大に向けた生産振興とともに、高い評価を受けている伊賀米、伊賀牛、ぶどう、美旗メロンなどの更なるブランド化の推進を図る必要があります。

<行政評価委員会からの意見>

意見なし

○施策指標 (目標) 及び達成状況 **Plan Do**

施策指標 (目標) の内容 (単位)		現状値 (H20)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	進捗率
市内産の農作物を積極的に購入している市民の割合 (%)	目標	-	-	67.0	-	-	69.0	
	成果	64.3	64.4	66.6	62.8	63.2		0%
農業経営体 (認定農業者数) の数 (人)	目標	-	-	53	-	-	65	
	成果	43	45	42	49	51		36%
新規就農 (業) 者数【延べ値】 (人)	目標	-	-	5	-	-	7	
	成果	3	12	20	33	42		100%
認定農業者等の農地利用集積率 (%)	目標	-	-	4.3	-	-	5.3	
	成果	3.3	2.7	3.3	4.2	4.3		50%
農産物の「地産地消」に取り組むグループの数【延べ値】 (グループ)	目標	-	-	9	-	-	11	
	成果	7	10	10	9	9		50%
園芸福祉市民講座の受講者数【延べ値】 (人)	目標	-	-	273	-	-	293	
	成果	253	715	835	835	835		100%

市民農園の利用が、地域住民との交流のきっかけになったと答えた人の割合 (%)	目標	-	-	20.0	-	-	22.0	0%
	成果	18.0	-	-	-	14.5	-	
水田を活用した景観作物の植栽面積の年間延数 (ha)	目標	-	-	2.8	-	-	3.1	0%
	成果	2.5	4.5	4.1	3.0	2.1	-	

3. 取組内容

○課題解決への取組内容

Do

- ・地域の住民が話し合い、地域の農業の将来像を定める人・農地プランにおいて、北部工区（美旗地域）の策定を行うとともに、プランの推進に努めました。
- ・経営所得安定対策制度等、農業経営基盤の強化と日本型直接支払制度を推進し、農業施設や農村環境の保全に努めました。
- ・宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対策協議会において獣害防止柵の設置を推進し、本年度は22地区、約52キロメートルに設置しました。また、サルを追いかうモンキーダックの育成訓練を実施しました。
- ・有害鳥獣の捕獲を推進し、シカ331頭、イノシシ95頭、アライグマ69頭、カワウ58羽などを捕獲しました。
- ・平成26年度の災害復旧事業では農地・農業用施設の2つの施設において合計8件、710万円の事業費で工事を行いました。また、老朽化施設では松原用水等の維持・管理に努めました。
- ・伊賀米振興協議会を中心にコシヒカリの栽培指導に取り組み、伊賀米コシヒカリは4年連続食味ランキングで特Aを獲得しました。また、各地で販売促進イベントを実施し、知名度の向上やブランド力の向上を図りました。

<行政評価委員会からの意見に対する取組内容>

意見なし

○地域等との連携、協働に向けた取組

Do

- ・日本型直接支払制度を活用して、地域住民と農業者が協働し、地域ぐるみでの取り組みきめ細やかな農業用施設の維持管理や農村環境の保全に向けた取組を支援しました。
- ・獣害対策について、地域と連携した効果的な取組を推進しました。

4. 施策達成のための事務事業及び評価

(合計 45 事業)

Do

Check

事務事業シート番号	事業名・担当室名	事業費 (単位：千円)		担当室による評価			部局による評価		
		2013 (H25)	2014 (H26)	事務事業の 施策への 貢献	地域づくり 組織等との 連携・協働	事務事業 シートでの 今後の 方向	施策達成 への 貢献度	施策達成 への 重要度	
1091	農業者年金事業	農業委員会事務局	16	10	—	該当しない	継続（現行）	—	—
1092	農地基本台帳事業	農業委員会事務局	210	3,051	B	検討している、今後可能性がある	継続（現行）	B	B
1093	農地銀行農地移動適正化事業	農業委員会事務局	0	442	B	検討している、今後可能性がある	継続（拡大）	A	A
1104	農業振興地域整備促進事業	産業政策室	199	9	A	該当しない	継続（現行）	A	A
1105	多面的機能支払機能交付金事業	農林資源室	2,275	6,437	B	実践している	継続（拡大）	B	B
1107	鳥獣害防止事業	農林資源室	4,925	2,075	B	実践している	継続（拡大）	A	A
1270	耕作放棄地予防対策事業	農業委員会事務局	0	0	B	検討している、今後可能性がある	継続（拡大）	B	B
1308	人・農地問題解決推進事業	農林資源室	959	2,802	B	検討している、今後可能性がある	統合検討	A	A
3042	とれたて！なばり実施補助金	農林資源室	400	400	B	実践している	継続（現行）	C	C
3044	中山間地域等直接支払事業（交付金含む）	農林資源室	15,879	15,874	B	該当しない	継続（現行）	B	B
3045	農業経営基盤強化資金利子補給金	農林資源室	454	591	B	該当しない	継続（現行）	B	B
3047	ほ場整備事業助成金	農林資源室	19,921	15,422	B	実践している	継続（現行）	B	B
3048	耕地事業補助金	農林資源室	1,502	2,529	B	実践している	継続（現行）	B	B
3051	昭和水路かんがい用ポンプ場維持管理補助金	農林資源室	100	100	B	実践している	継続（現行）	C	C
3052	松原揚水維持管理補助金	農林資源室	540	842	B	実践している	継続（現行）	C	C

3054	鳥獣害防止対策事業補助金	農林資源室	490	288	B	実践している	継続(拡大)	B	B
3079	経営所得安定対策推進事業	農林資源室	4,605	4,872	B	実践している	継続(現行)	B	B
3080	土地改良施設維持管理適正化事業	農林資源室	1,300	3,000	B	検討している、今後可能性がある	継続(現行)	B	B
3154	「なばり発見!食のまち宣言」推進事業補助金	農林資源室	200	200	B	実践している	継続(現行)	A	A
3156	青年就農給付金事業	農林資源室	5,250	11,250	B	該当しない	継続(現行)	B	B
3157	経営体育成支援事業	農林資源室	5,412	19,519	B	該当しない	継続(現行)	B	B
3161	県単有害鳥獣捕獲緊急対策事業	農林資源室	3,160	3,400	B	実践している	継続(現行)	A	A
3162	農地集積協力金交付事業	農林資源室	1,123	0	B	該当しない	統合検討	B	B
4011	かんがい排水事業	農林資源室	2,156	1,913	B	検討している、今後可能性がある	継続(現行)	B	B
4013	県営ふるさと農道整備事業(小波田地区)	農林資源室	-	55,544	B	該当しない	H26完了	B	-
4017	基幹水利施設ストックマネジメント事業(青蓮寺用水地区/宇陀川用水)	農林資源室	216	0	-	該当しない	継続(拡大)	B	-
4059	現年補助災害復旧事業(農業用施設)	農林資源室	13,310	2,331	B	該当しない	H26完了	B	-
4060	現年補助災害復旧事業(農地)	農林資源室	8,407	4,785	B	該当しない	H26完了	B	-
4061	農林施設災害応急復旧事業	農林資源室	3,516	1,638	B	該当しない	継続(拡大)	C	C
4083	団体営ため池等整備事業(新田5期地区)	農林資源室	27,371	30,169	B	実践している	継続(拡大)	B	B
4152	農山漁村活性化事業	農林資源室	13,575	21,091	B	検討している、今後可能性がある	継続(拡大)	A	A
4153	県営農道保全対策事業(伊賀地区)	農林資源室	7,500	2,286	B	該当しない	継続(現行)	B	B
4204	共有水路改修事業	農林資源室	1,978	672	B	該当しない	継続(現行)	B	B
4205	県営農村振興総合整備事業(伊賀2期地区)	農林資源室	-	125	B	検討している、今後可能性がある	継続(現行)	B	B
4251	農業基盤整備促進事業(川西地区)	農林資源室	-	13,036	B	実践している	継続(現行)	B	B
5012	農業研修センター管理費	農林資源室	4,358	4,483	B	該当しない	継続(改善)	C	C
5013	国津の杜管理費	農林資源室	5,800	6,297	B	実践している	継続(現行)	B	B
5014	高岩井堰維持管理費	農林資源室	188	188	B	該当しない	継続(改善)	C	C
5015	農業用施設改良補修資材費	農林資源室	1,090	1,826	B	実践している	継続(現行)	C	C
5016	農道維持管理費	農林資源室	1,840	2,051	B	検討している、今後可能性がある	継続(拡大)	B	B
6077	農業委員会費	農業委員会事務局	9,321	8,884	B	検討している、今後可能性がある	継続(拡大)	-	-
6078	農業総務一般経費(農林資源室)	農林資源室	1,160	1,002	-	該当しない	継続(現行)	-	-
6079	農業支援センター運営費	農林資源室	0	0	B	該当しない	継続(現行)	-	-
6080	農業振興一般経費	農林資源室	946	927	-	該当しない	継続(現行)	-	-
6161	農業総務一般経費(産業政策室)	産業政策室	-	15	-	該当しない	継続(現行)	-	-
合計(単位:千円)			171,652	252,376					
小計(うち、一般会計分)			171,652	252,376					
小計(うち、特別会計・企業会計・組合会計分)			0	0					

5. 部局による施策評価

Check

評価

事業推進の一部改善

成果・評価理由

- ・施策目標に対する成果からは、地産地消に対する市民意識は横ばいの状況にありますが、伊賀米コシヒカリは4年連続食味ランキングで特Aを獲得し、美旗メロンは地域団体商標を取得するなど、品質の向上とブランド強化を図り、消費者の購買意欲向上に寄与できたと考えられます。
- ・就農相談など地道な活動を進めてきた新規就農者の拡大について、目標を大きく上回りました。
- ・認定農業者への農地集積率は伸び悩んでおり、農業経営の安定化に向けた集約化が進んでいないことが伺えます。
- ・老朽化施設等の更新等については受益者への負担が重く、思うように進んでいない状況があります。しかしながら、地区住民がその地域の農地や農業用施設を共働で保全する多面的機能支払交付金事業は、平成26年度末には市内の548haにまで拡大し、施策の浸透が一定図られているところであります。

6. 今後の施策の方向性、改善方法

Action

- ・農産物の安定供給のためには、地域内消費に繋がる生産物の充実や少量多品目の生産などとともに農業経営基盤の強化が必要であり、人・農地プランの推進による農地集積と、国の経営所得安定対策などの活用に努めます。
- ・新規就農者の拡大とともに、定着に向けた取組を進めます。
- ・農業や農村の有する多面的機能の維持や施設の長寿命化を図るため、多面的機能支払交付金の更なる拡充を図り、より多くの市民の方に地域の保全活動に参加いただけるよう努めます。